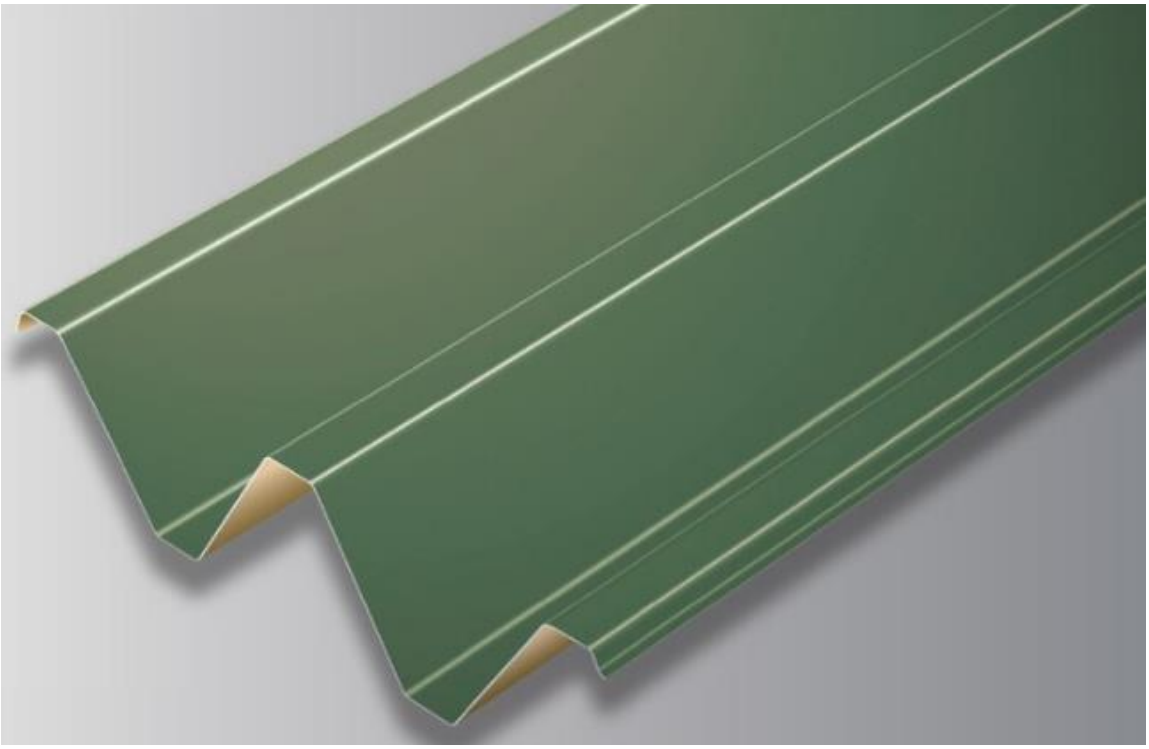
重ね折板

・ＭＳＷ−３００
・ＭＳＷ−５００
・ＭＳＷ−６００

施工の手引
（二重葺き折板）



月星商事株式会社

http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp

施工の手引きご使用にあたって

● この施工の手引きには、以下①～③に記載の弊社製品の一般的な地域で使用することを対象とした標準的な施工内容について説明しております。
多雪地域および強風地域、または特殊な条件で施工される場合は、必ず弊社までご相談ください。

＜対象製品＞
①ＭＳＷ-３００
②ＭＳＷ-５００
③ＭＳＷ-６００

● 現場作業においては、労働安全衛生法をはじめとする関係法令・規則通りの作業およびこの施工の手引きをご理解の上、実際の現場に即した安全で確実な施工を行って頂きますようお願い致します。

● 施工の手引き内で示す寸法は標準値であり、現場での実施工において地域性等を考慮する場合、納まり状況等により前後することがあります。

● 施工の手引きを参考いただき、元請け様や工事店様のご判断、責任のもと、施工を行って頂きますようお願い致します。
弊社は免責とさせていただきます。

安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠ 警告

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

●高所作業を伴いますので、転落による事故防止のため、高所作業の
正しい服装と保護具を着用し、足場の点検を行ってください。
●２メートル以上の高所作業は、安全ベルト、命綱の携帯が法律で規
定されています。事故の可能性がありますので、関係法規に従って
ください。
●金属製屋根材ですので、怪我を防止するために、必ず作業手袋を着用してください。
●雨や露で屋根面が濡れている場合は、施工しないでください。
滑り落ちる恐れがあります。
●金属屋根や金属部材は、電線等に触れないように取り扱ってください。
感電の恐れがあります。
●固定していない屋根材・役物の上には絶対に乗らないでください。
●屋根材は風で吹き飛ばされないように設置してください。また風の吹いているときに持ち運ぶ場合、あおられないよう、足元を固めてください。
●葺き上げた屋根面には物を置かないでください。

⚠ 注意

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が傷害を負う危険または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

●製品の屋外保管の場合は防水シートで覆い、雨水に濡れないようにしてください。
●防水のため施工の際は、葺き板の働き幅による正確な割付を行ってください。
●屋根上での歩行は、屋根材に過度の負荷が加わらないように注意してください。
●断熱材貼り製品の場合、裏面や切断面に溶接の炎、火花などがあたると引火する恐れがあるので、養生するなど特にご注意ください。
●屋根上で作業中に出る加工片や切粉は、錆の原因となりますので、確実に取り除いてください。
●異種金属との接触は、もらい錆の原因となりますので、避けてください。
●現場加工時に、鉄板の切断面に生じたバリは、怪我をする可能性があるので取り除いてください。
●施工したあとの屋根面の塗装に傷が付かないように注意してください。もし傷を付けてしまった場合は、必ず補修塗料で補修をしてください。
●シーリング材、補修スプレー、補修塗料などは、製品安全データシートに従って、正しくご使用ください。
●落ち葉やごみなどは作業者の足を滑らせたり、目を傷つけたりして事故の原因となることがありますのでご注意ください。毎日の作業前・終了後は、現場の掃除をしてください。

免責事項

金属屋根材および外装材は、建築材料・製品として、十分満足できる品質・性能を備えていますが、正しい施工と適切な維持管理がなされることによって、初めて耐久性や対候性、その他の機能が発揮されるものです。
下記の項目に反した使用により不具合が発生した場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

●貴社の施工管理が十分なされなかったことに起因する場合。
●施工店による施工や、取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
●入居者（管理人を含む）又は第三者による維持管理不行き届き並びに故意・過失に因る場合。
●建物の構造上に起因する変形、変位または結露、下地材の腐朽等による不具合が発生した場合。
●施工に起因する事故、および釘部の錆、切粉・加工屑・落ち葉・動物の排泄物・粉塵等が原因で汚れ等が発生した場合。
●瑕疵を発見後、速やかに通知が出されなかった場合。
●シーリング部に不具合が発生した場合。
●経年劣化による軽度の色ムラ及び埃の堆積による変色や白化現象、苔、藻、カビ等の発生による汚水や変色。
●建築基準法および関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
●天変地異・周辺環境・大気汚染等公害・塩害に起因する特殊環境下で不具合が生じた場合。
●契約当時、実用化された技術では予測することが不可能な現象に起因する場合。
●屋根・外装材以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。
●水が溜まる状態の部分の塗膜損傷および電蝕作用が原因で不具合が生じた場合。
●不適当な他材料（胴、鉛、銅イオンを防腐処理した木材等）と組み合わせて使用したことに起因する場合。
●屋根工事完了後における増改築・補修並びに太陽光発電システムやアンテナ等の設置或いは付属品等の取付けに因る場合。
●特殊環境地域（温泉場や絶えず蒸気等により製品が濡れている様な環境の地域、焼却炉付近、特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類・その他腐食物質を発生する施設や工場並びに地域、塩害地区、海・河川等の周辺でしぶきがかかるような地域、煙塵及び金属粉・石粉が堆積する地域）における損傷。
●その他弊社の責に因らない損傷に起因する場合。

その他ご不明な点がありましたら弊社にご相談ください。

目　次

	頁
施工の手引きご使用にあたって	1
安全上のご注意	2
目　次	3
[１]製品仕様	
（1）各重ね折板製品仕様	4
（2）耐火構造　屋根耐火３０分　認定一覧（二重葺き）	5
（3）標準部材	6
[２]標準施工計画	
（1）段取りと施工の手順	7
[３]標準施工方法	
（1）下葺材の施工	8
（2）断熱金具の取付け	8
（3）グラスウールの敷き込み	9
（4）上葺材の取付け	10
（5）緊結ボルト（ルーフボルト）の取付け	11
[４]施工後の注意	
（1）屋根面の点検	12
（2）屋根面の清掃・補修	12
■注意事項	13

（注）　この施工の手引きは標準施工例です。
　　屋根材、役物等の納めについては、各現場の状況に応じて施工してください。

［１］製品仕様

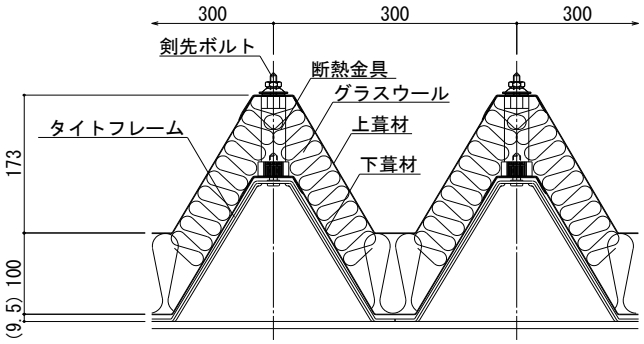
（１）各重ね折板製品仕様

No	品名	板厚 (㎜)	単位重量 kg/m	単位重量 kg/㎡	働き幅 (㎜)	勾配	自然曲げ半径	ベンタム加工
①	ＭＳＷ-３００	0.6	3.00	10.00	300	3/100以上	250mR以上	×
		0.8	3.95	13.17				
		1.0	4.91	16.37				
②	ＭＳＷ-５００	0.6	4.49	8.98	500	3/100以上	250mR以上	○
		0.8	5.92	11.84				
		1.0	7.36	14.72				
③	ＭＳＷ-６００	0.5	3.77	6.28	600	3/100以上	150mR以上	○
		0.6	4.49	7.48				
		0.8	5.92	9.87				
		1.0	7.36	12.27				

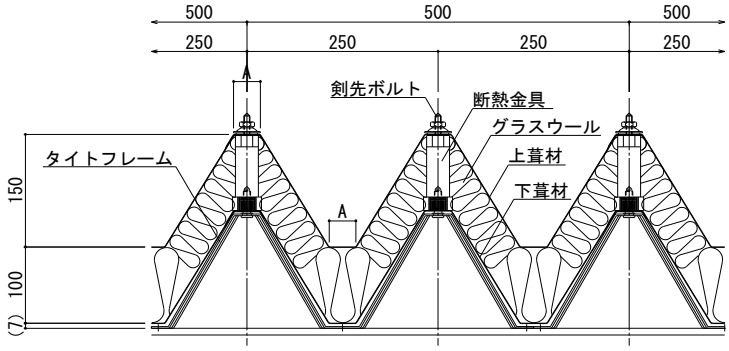
※ 自然曲げをすることにより折板底部および斜め部に波状の歪みが発生しますのでご留意ください。

※ ベンダム加工は一部の工場で加工対応可

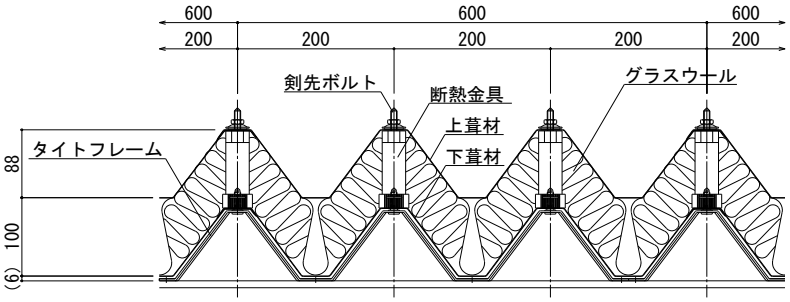
◆ＭＳＷ-３００◆



◆ＭＳＷ-５００（A:①35㎜ or ②40㎜）◆



◆ＭＳＷ-６００◆



（２）耐火構造　屋根耐火３０分　認定一覧（二重葺き）

＜各認定番号下の記載内容は、主な仕様を記載＞

※裏張材の有無（無し又は裏張材の組合せ（2種類）と上張材・下張材の組合せで9種類）

＜対象折板＞ＭＳＷ－３００

・ 屋根耐火３０分　認定取得無し

＜対象折板＞ＭＳＷ－５００

◆ 認　定　番　号 ： FP030RF-1801（1）～（9）※
認　定　名　称 ： グラスウール断熱充てん/（※）めっき鋼板製折板屋根
認定管理事業者 ： （一社）日本金属屋根協会　断熱亜鉛鉄板委員会
許　容　梁　間 ： 3,750㎜以下
板　　厚 ： 上葺材　0.8㎜～1.2㎜
下葺材　0.6㎜～1.2㎜
材　　質 ： JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3321、JIS G 3323　等（詳細は認定書（別添）参照）
ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ板厚 ： 2.3㎜～4.5㎜
ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄ ： M8以上×L57以上
座　　金 ： 厚さ1.4㎜～1.6㎜（直径30㎜～35㎜）
防水ﾊﾟｯｷﾝ ： 厚さ3.5㎜～6.0㎜、直径21㎜
断　熱　金　具 ： ダンボ100
断　　熱　　材 ： グラスウール断熱材（JIS A 9521）、厚さ 100㎜×1層 又は 50㎜×2層、密度 10kg/㎥
外皮ポリエチレン系フィルム 20μm 以下 有 又は 無
裏　　打　　材 ： 無し 又は 有り

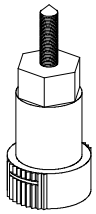
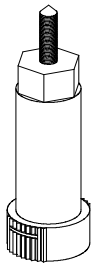
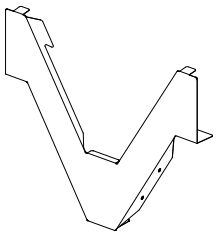
＜対象折板＞ＭＳＷ－６００

◆ 認　定　番　号 ： FP030RF-1802（1）～（9）※
認　定　名　称 ： グラスウール断熱充てん/（※）めっき鋼板製折板屋根
認定管理事業者 ： （一社）日本金属屋根協会　断熱亜鉛鉄板委員会
許　容　梁　間 ： 2,500㎜以下
板　　厚 ： 上葺材　0.6㎜～1.2㎜
下葺材　0.6㎜～1.2㎜
材　　質 ： JIS G 3302、JIS G 3314、JIS G 3321、JIS G 3323　等（詳細は認定書（別添）参照）
ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ板厚 ： 2.3㎜～4.5㎜
ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄ ： M8以上×L57以上
座　　金 ： 厚さ1.4㎜～1.6㎜（直径30㎜～35㎜）
防水ﾊﾟｯｷﾝ ： 厚さ3.5㎜～6.0㎜、直径21㎜
断　熱　金　具 ： ダンボ100
断　　熱　　材 ： グラスウール断熱材（JIS A 9521）、厚さ 100㎜×1層 又は 50㎜×2層、密度 10kg/㎥
外皮ポリエチレン系フィルム 20μm 以下 有 又は 無
裏　　打　　材 ： 無し 又は 有り

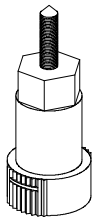
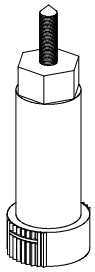
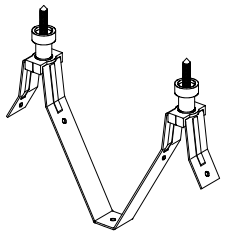
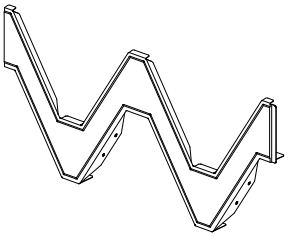
（3）標準部材

※下図以外の標準部材については、「施工の手引き　重ね折板（シングル葺き）」参照

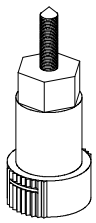
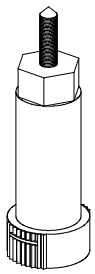
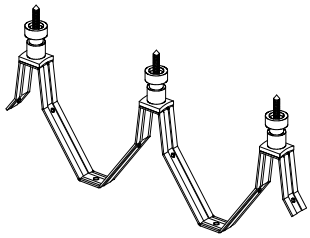
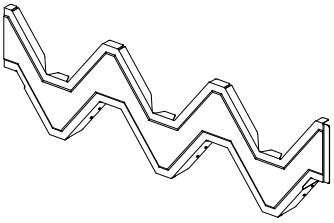
◆ＭＳＷ－３００（屋根耐火３０分　認定取得無し）◆

断熱金具（ダンボ66）	断熱金具（ダンボ100）	W面戸
		 ※パッキン付きも対応可

◆ＭＳＷ－５００◆

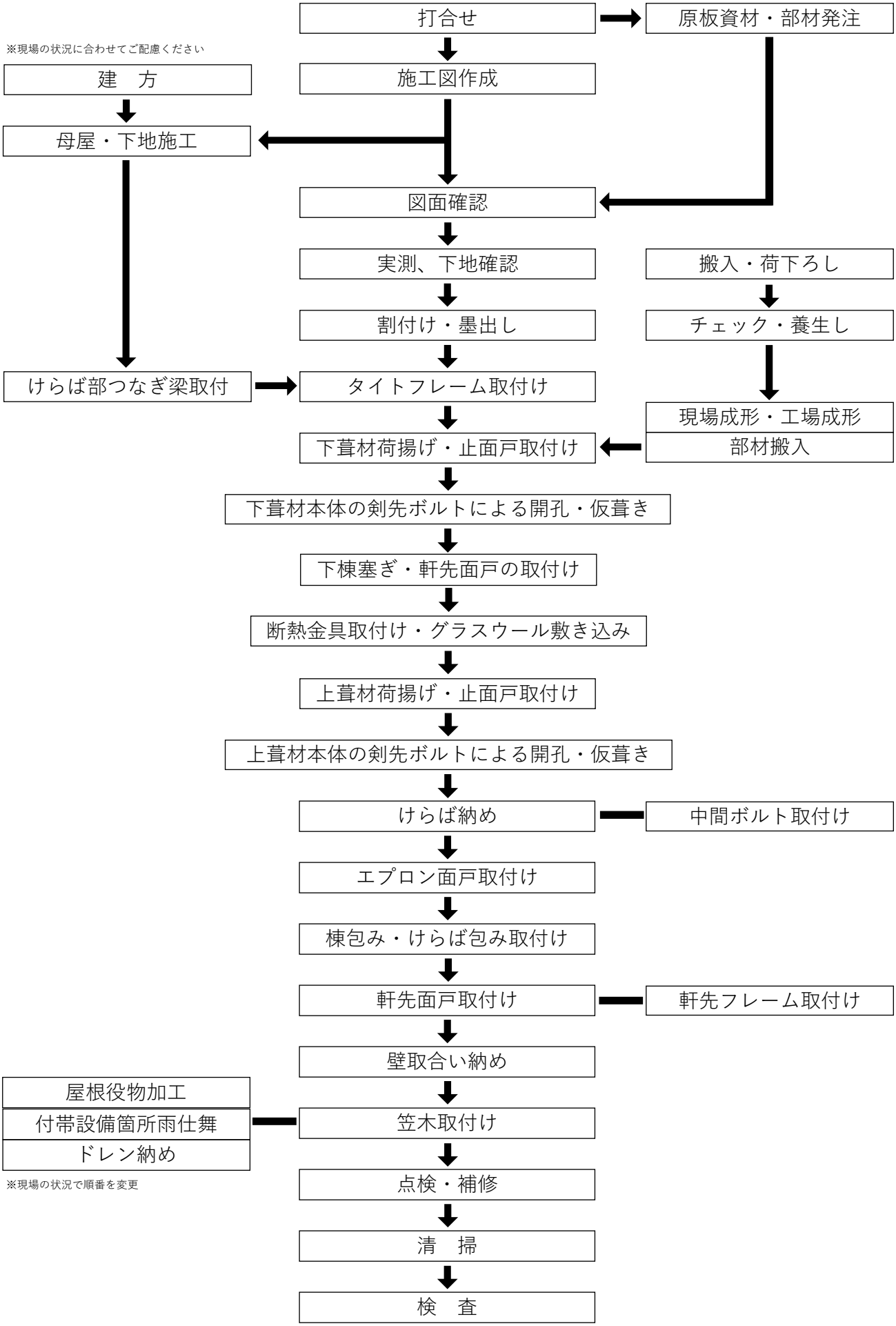
断熱金具（ダンボ66）	断熱金具（ダンボ100）	ふき葺きⅡ型　ライトタイプ（断熱仕様）
 ※屋根耐火30分認定　対象外		 ※屋根耐火30分認定　対象外
W面戸		
 ※パッキン付きも対応可		

◆ＭＳＷ－６００◆

断熱金具（ダンボ66）	断熱金具（ダンボ100）	ふき葺きⅡ型　ライトタイプ（断熱仕様）
 ※屋根耐火30分認定　対象外		 ※屋根耐火30分認定　対象外
W面戸		
 ※パッキン付きも対応可		

［２］標準施工計画

（１）段取りと施工の手順



[３]標準施工方法（※イメージ図はＭＳＷ－３００で作図）

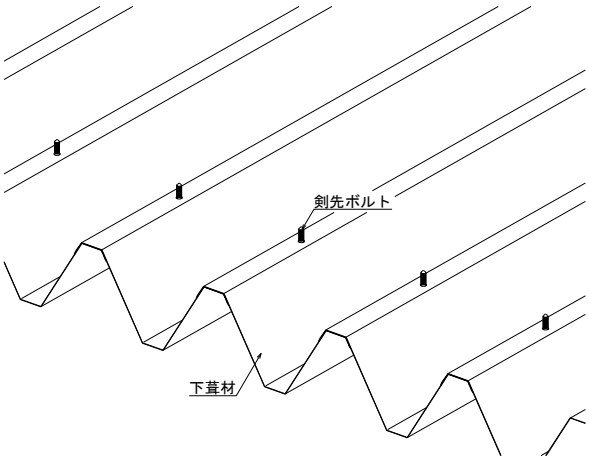
（１）下葺材の施工

・ 下葺材を施工してください。

※施工方法については、

弊社「重ね折板　施工の手引き（シングル葺き）」

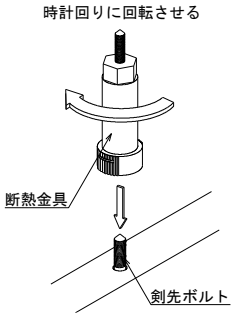
をご参照ください。

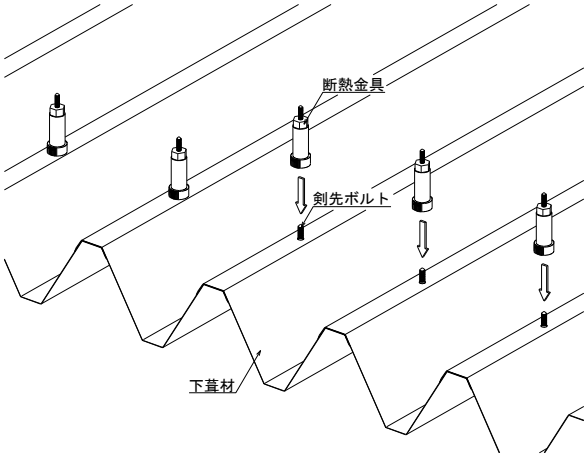


（２）断熱金具の取付け

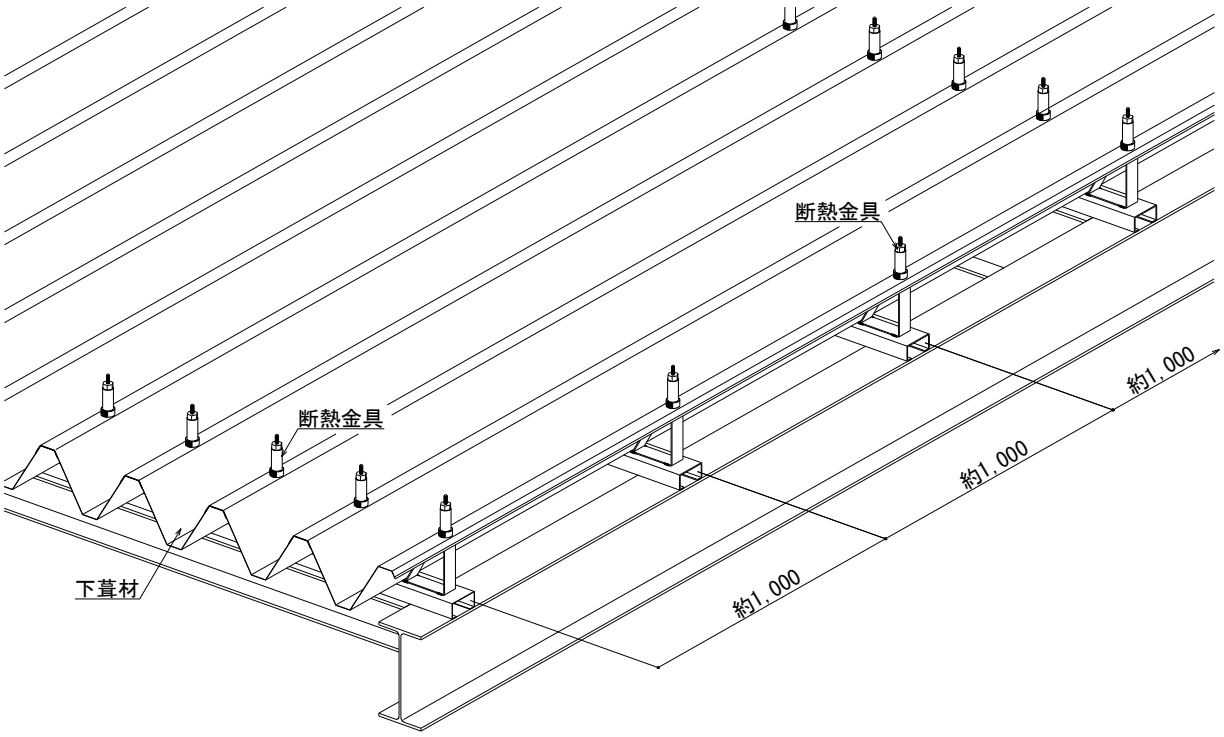
・ 断熱金具を下葺材を開孔し貫通させたタイトフレームの各剣先ボルトに取り付けてください。

（一般部、けらば部共通）





イメージ図



（3）グラスウールの敷き込み

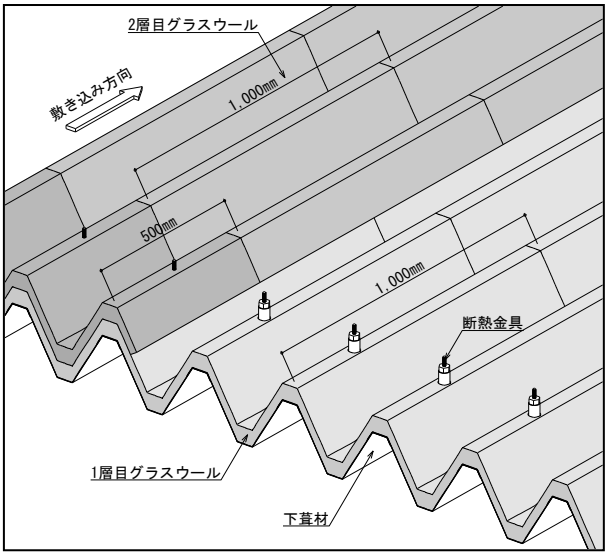
● 厚さ50㎜×2層の場合

・ グラスウール（10kg/㎥以上、t=50㎜）を2層に下葺材の上に敷き込んでください。

・ 上下グラスウールのジョイント部は重ならないように、ずらして敷き込んでください。

● 厚さ100㎜×1層の場合

・ グラスウールは折板の流れ長さ方向と直角に水下側より隙間が無いように敷き込んでください。



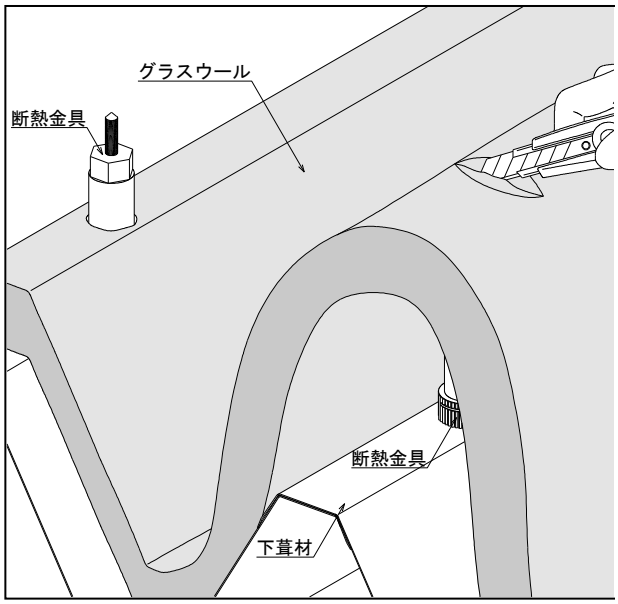
※上図は50㎜×2層で表現

⚠ 注意

・ グラスウールの敷き込み作業中は、ビニールシート等を用意して、不意の降雨等で濡らさないように注意してください。

⚠ 注意

● 上葺材を施工するために、断熱金具部分についてはグラスウールにカッターナイフ等で切れ目を入れ、必ず剣先ボルトを完全に露出させてください。

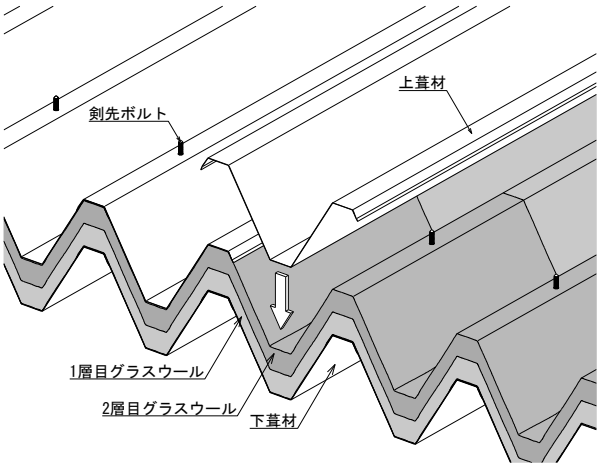


（4）上葺材の取付け

● 折板本体の仮葺き

・ 断熱金具の取付けミスおよび剣先ボルトがグラスウールから完全に露出しているか確認してください。

・ 軒先の出に不揃いがないかを確認し、さらにピアノ線等を張って出を揃えてください。



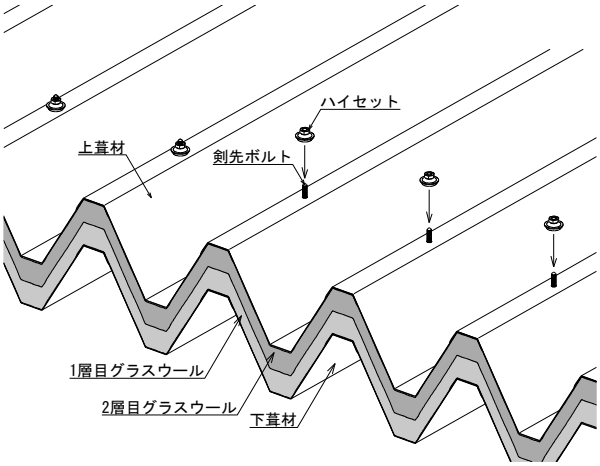
⚠ 注意

・ 必ず軒先を合わせてから、折板本体を仮葺きしてください。

● 折板本体本締めナット・パッキン取付け

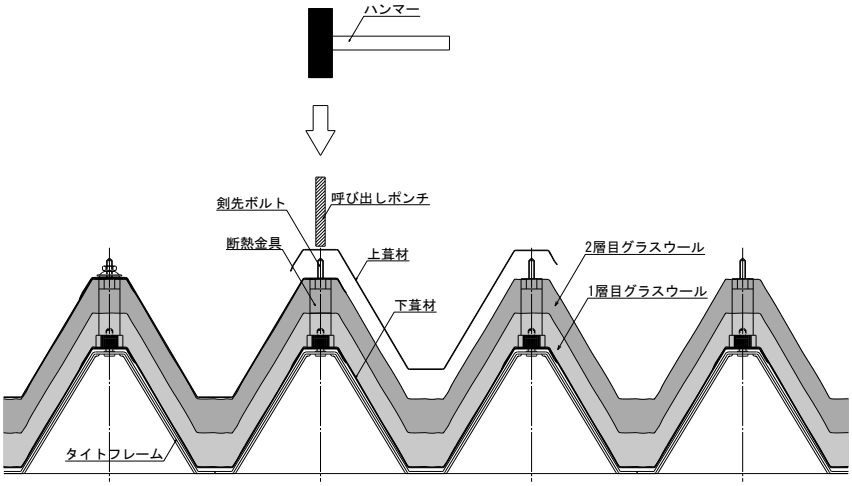
・ 折板本体の重ね部中央を剣先ボルトに載せ、ハンマーで当たりを付けて位置決めを行い、呼び出しポンチをあてがって上部をハンマーで叩き、折板本体を開孔してください。

・ 呼び出しポンチの内径は剣先ボルト径より0.5㎜程度大きいものを使用してください。

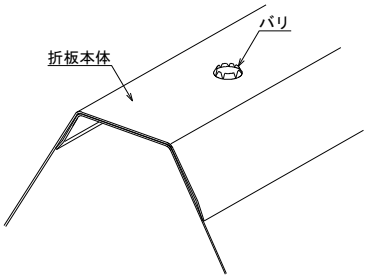


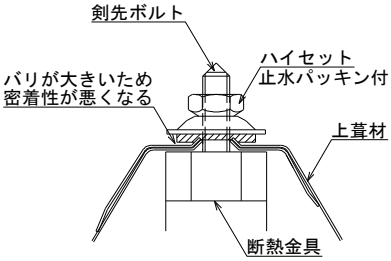
⚠ 注意

・ 剣先の開孔が折板本体重ね部の中央から大きく外れると軒先部の重ねが大きくずれて、水密性が低下する恐れがありますのでご注意ください。



・ 呼び出しポンチの内径が大き過ぎると、バリ（かえり）が大きくなりパッキンの密着性が悪くなる恐れがありますのでご注意ください。

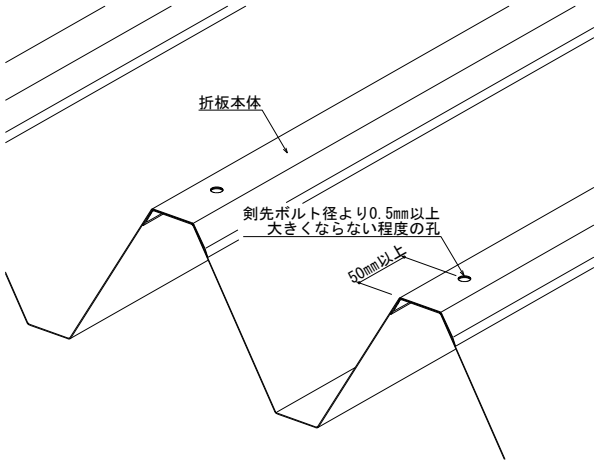




● 折板本体への孔開け

・ 緊結ボルト（ルーフボルト）径より0.5㎜以上大きくならない程度のドリルを用いて重ね合わせが正常である事を確認してから開孔してください。

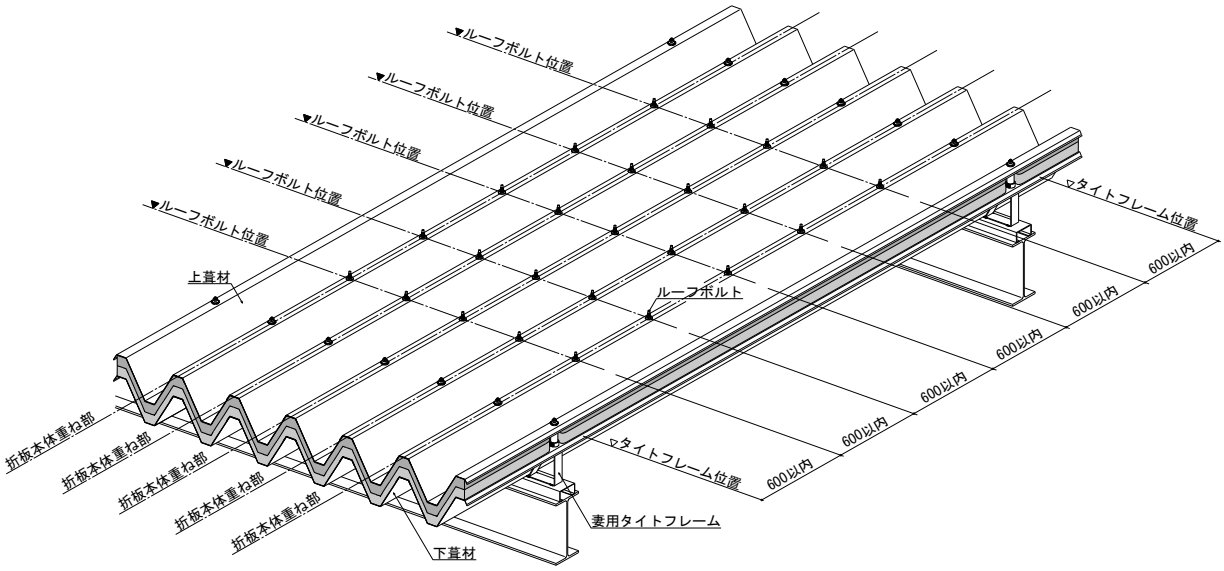
・ 開孔位置は端部より50㎜以上となるようにしてください。



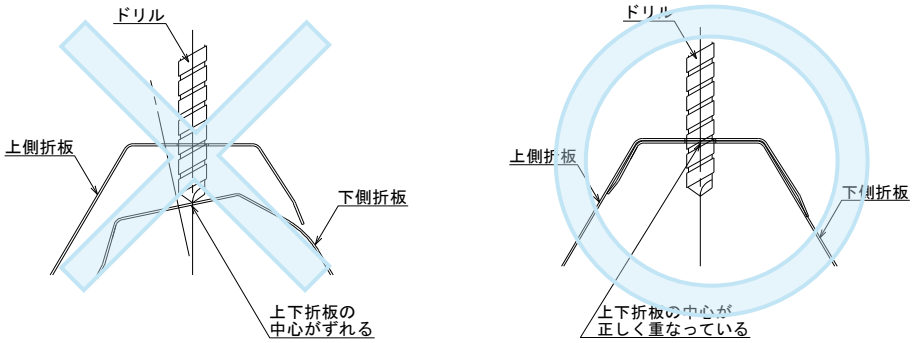
（5）緊結ボルト（ルーフボルト）の取付け

・ タイトフレーム固定ボルト締め完了後、タイトフレーム間の折板本体重ね部に等間隔で600㎜以内に割付けて緊結ボルト（ルーフボルト）止めを行ってください。

※緊結ボルト（ルーフボルト）はメーカーの推奨する締付けトルクで取付けて下さい。



＜緊結ボルト（ルーフボルト）孔の良否＞



[４]施工後の注意

（１）屋根面の点検

● 点検・検査箇所

① 重ね部の組み合わせ不良による浮き上がり

② 各種役物の納まりのチェック

・ 確実な取付けが行われているか？

・ 重ね寸法は十分か？

・ 重ね部のシーリングは良いか？

③ 要所のシーリング

④ 取り扱いキズ、切粉等もらい錆の原因となる物が散乱していないか？

※ 点検表などを作成し記録するとともに、手直しを必要とする箇所にはカラーテープ等でマーキングし、補修漏れを起こさぬようにお願いします。

● 屋根面を歩くとき

・ 漏水の原因となりますので、棟包み、けらば包み、役物ジョイント部等の上には乗らないでください。

（２）屋根面の清掃・補修

● 切粉、もらい錆の原因となる物は必ず清掃し除去してください。

● 清掃用具は柔らかい物で鋼板表面塗膜にキズ等が生じない物を使用して下さい。

● 洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使用し布で拭き取ってください。
（金属ブラシ、スチールウール、金属ヘラ等は使用しないでください）

● 折板屋根表面の塗膜キズは清掃後に布などで油・ゴミを完全に取り除き、表面材と同色の純正補修塗料で塗装補修をしてください。

● 残材は作業現場に残さないよう処理し検査に支障をきたさないよう、周辺環境の整備を行ってください。

■注意事項　日鉄鋼板株式会社カタログより抜粋

SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）

ご使用に際して

1.混合使用

●同じ色彩の塗装溶融2%マグネシウム添加55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板または、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板でも製造メーカー、種類により特性値が異なり、年月を経ると外観に差異が生じることから同一建物での混合使用は絶対に避けて下さい。

2.扱い疵

●成形・運搬・施工時、表面に擦れ傷、カキ疵が付く場合がありますので、取扱いには十分注意して下さい。

3.塗装を剥がす場合

●ハンダ付け等で塗装を剥がす必要がある場合、剥離剤による方法がありますが、強い溶剤を含んでおり、剥離作業後の水洗が十分でないと、後に塗る塗膜を極端に傷めますので、水洗は十分に行って下さい。

4.加工時のクリアランス

●呼び厚さは原板厚さを言いますので、加工時のクリアランスはめっきの厚さ及び塗膜の厚さを考慮の上、適正なクリアランスを設定して下さい。

5.成形ロールの手入れ

●成形加工は、一般カラーと全く同様にできますが、良好な仕上がりを得るためには成形機の錆び落としなどの手入れをお願い致します。

6.施工後の注意

●施工時に発生した切粉等は「もらい錆び」の原因となりますので、除去して下さい。また、周辺から飛来する金属粉も「もらい錆び」の原因となりますので、金属粉が多く飛来する環境下でご使用される場合は定期的に清掃されることをお勧めします。

●動物等の排泄物、砂、泥、有機物（土、木の葉）、農薬、融雪剤、凍結防止剤などの堆積は、腐食の進行が非常に早くなりますので、その都度清掃してください。

7.補修塗料について

●塗料を剥した部分、著しい瑕疵部分等、補修塗装する場合は補修塗料を使用して下さい（補修塗料は最寄りの販売代理店へ請求して下さい）。補修塗料はそのまま使用できるように調合してありますので、十分に撹拌し、溶剤で希釈せず直接刷毛等で塗布して下さい。

8.SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消しの場合

●SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しは、梨地肌の完全つや消し仕上げの製品外観（光沢が低く、表面粗度が大きい）にしているため、一般カラーと比較すると雪が滑りにくいと考えられます。このため、SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しを屋根にご使用いただく場合には、この点を十分ご配慮の上ご使用願います。

9.防腐・防蟻処理木材との長期接触による腐食の防止について

●防腐・防蟻剤（主に銅系の薬剤）を使用した木材や合板は、めっき鋼板や塗装鋼板の耐食性に影響をおよぼしますので、防腐・防蟻処理を含む木材との接触は避けて下さい。直接木材や合板に接触する部分（軒下、けらば、棟包み、水切り、降り棟、谷部、目地等）には絶縁用下葺（ルーフィング材、またはブチルテープ等）をご使用下さい。

10.メタリック色の使用について

●メタリック色は光線の正反射性が強い傾向にあります。そのため、僅かな材料の歪みや角度の違いによって見かけ上に明暗が生じ色ムラに見えます。

11.運搬および保管時の注意

●製品の保管は梱包状態で屋内保管とし、保管期間はできるだけ短くして下さい。やむを得ず野積みをする場合には製品下部に適当な間隔で枕木等を置いて地面と直接接触しないようにして下さい。もしコイルや積み重ねした平板が水濡れした場合は、できるだけ速やかに成形するなどして乾燥させて下さい。成形品を積み重ねたまま水濡れさせることも禁物です。

保証内容について

●セリオスプライムタイプ別の保証内容および機関

1）SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）全タイプ
：建築施工後最長25年間（目安：海岸から500m以遠）、材料の腐食による穴あきが無いこと。

2）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し
GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し（クリーン・クール/2タイプ）
：建築施工後最長15年間、塗膜の変退色が一定の基準以下であること。

3）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消しメタリック、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し（クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ）
：建築施工後最長15年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。
（切断面、加工部から発生した以上は対象外）

4）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）エナメル・エナメルメタリック、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）エナメル（クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ）
：建築施工後最長10年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。
（切断面、加工部から発生した以上は対象外）

（注）塗膜保証 2）,3）,4）についてSGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）は海岸500m以遠、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）は海岸2km以遠となります。

※1海岸からの距離や周辺環境により保証内容が異なる場合があります。保証には別途当社で定める条件があり、保証内容のしょうさいについては当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。

●保証条件

1）適切な環境で使用されていること。（使用環境で保証年数は変わります。）
2）設計・施工・加工が適切に実施されていること。
3）お客様からの申請に基づき個別保証書を発行すること。

※1 保証には別途条件があります。保証の詳細については当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。

※2 個別保証書は大切に保管して下さい。苦情のお申し立ての際は個別保証書をご提示下さい。

●免責事項の例

1）切断面、端面、ボルト穴、くぎ穴、溶接部、現場加工部から派生する欠陥等。
2）軒下等雨がかりしないため、雨水による洗浄効果が期待できない部分の欠陥等。

※保証をお申し込みされる場合、他の免責事項については当社営業窓口または特約店にご確認下さい。

◇最新の情報については、当社営業窓口または特約店へお問合せください。

保証対象外について

●SERiOS Prime（セリオスプライム）については、従来材と比較した機能の向上を製品長さとしてうたったものであり、機能（遮熱、防汚、耐痕）を保証するものではありません。

不適切な使用例

以下は保証の対象外となる場合（免責事項）の例です。詳細はメーカー営業窓口または特約店へお問合せ下さい。

1.環境例

●塩害、亜硫酸ガス、アルカリなどの影響がある場合。
●鉄粉など付着した場合。
●湖沼、河川などの周辺で常に水しぶきがかかる場合。
●天変地変、災害など、その他不可抗力による損傷が発生した場合。

2.加工・施工例

●施工後に外力、加工屑などの飛来による損傷があった場合。
●加工時、施工時に損傷が発生した場合。
●防腐剤、防蟻剤を含む木材との長期接触があった場合。
●葺工法毎に許容される屋根勾配を無視した場合。

めっき鋼板・塗装鋼板のメンテナンスについて

めっき鋼板・塗装鋼板はサビに強く、とても優れた素材ですが、完ぺきな素材ではありません。適切なメンテナンスをすることで、めっき鋼板・塗装鋼板の性能を最大限活かし、長持ちさせることができます。ここではメンテナンスのポイントをご紹介してまいります。

■水洗いの方法

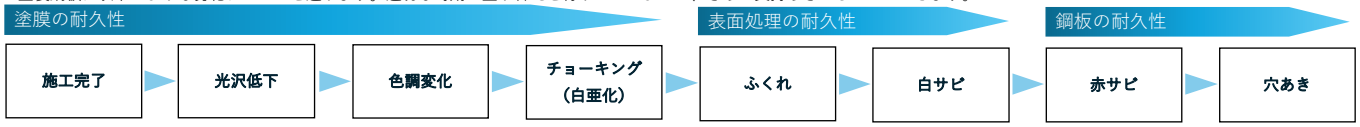
定期的に点検を行い、汚れが付着している場合は水洗いをして下さい。水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤を1～2%に希釈して洗浄して下さい。
鋼板の表面を傷付けないよう、やわらかい箇所は汚れが溜まりやすくなりますので、念入りに行うようにして下さい。

■汚れが溜まりやすい箇所

軒下や庇の下などは雨水が当たりにくく、塩分や酸性の腐食原因物質が蓄積しやすくなります。そのため、定期的に水をかけて腐食原因物質を洗い流すことをお勧めします。

■塗り替えについて

塗装鋼板は以下のような劣化プロセスを辿ります。適切な時期に塗り替えを行うことによって、さらに長持ちさせることができます。



○塗装面がチョーキングの末期状態でふくれが散見される状態が塗り替えの適正時期です。
○塗装鋼板の種類や環境によって時期は異なりますが、おおおそ10～15年が目安です。
○塗り替え用塗料は各塗料メーカーより市販されておりますので、施工事業者とご相談ください。

月星商事株式会社

本社　〒104-8533　東京都中央区八丁堀４丁目４番２号

営業　TEL:03（3551）2121　FAX：03（3552）4079

http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp

大阪支店	TEL:06（6462）0202	FAX:06（6462）4466
福島支店	TEL:0247（62）6211	FAX:0247（62）6220
北関東支店	TEL:0270（65）3311	FAX:0270（65）8747
小山支店	TEL:0285（49）2311	FAX:0285（49）2317
埼玉支店	TEL:048（728）9111	FAX:048（728）8585
土浦支店	TEL:029（831）8022	FAX:029（831）8010
千葉支店	TEL:043（259）0511	FAX:043（257）2005
神奈川支店	TEL:046（263）2020	FAX:046（263）2035
静岡支店	TEL:0548（22）5241	FAX:0548（22）5631
名古屋支店	TEL:0561（31）0061	FAX:0561（31）0063
兵庫支店	TEL:0790（22）5271	FAX:0790（22）5262
札幌営業所	TEL:011（221）6748	FAX:011（221）6734
北上営業所	TEL:0197（67）1221	FAX:0197（67）1223
いわき営業所	TEL:0246（58）5861	FAX:0246（58）5241
山梨営業所	TEL:055（284）1261	FAX:055（284）1263
高松営業所	TEL:087（806）3311	FAX:087（806）2236
福岡営業所	TEL:092（939）5700	FAX:092（939）5703

■お問い合わせは――――

2410-01